

鹿児島県の外来植物 IV： 台湾ハチジョウナ，ダキバアレチハナガサ，オオマツバウンラン

田金秀一郎¹・久保紘史郎²・山崎海都³・鈴木英治¹

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

² 〒 892-0853 鹿児島市城山町 1-1 鹿児島県立博物館

³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35 鹿児島大学理学部

はじめに

鹿児島県の外来植物に関する知見を蓄積することを目的とするこの一連の報告において、今回は鹿児島県内で分布の拡大傾向にあるキク科の台湾ハチジョウナとクマツヅラ科のダキバアレチハナガサ、県内で初めて確認されたオオバコ科のオオマツバウンランについて報告する。

観察記録

台湾ハチジョウナ *Sonchus wightianus* DC., Prodr. [A.P. de Candolle] 7(1): 187 (1838). [キク科] 図 1.

台湾ハチジョウナは開花時の草丈 60 cm 程度のキク科の多年生草本である。鹿児島大学総合研究博物館 (KAG) と鹿児島県立博物館 (KAP) には、1999 年から 2017 年にかけて奄美大島・徳之島・沖永良部島から採集された次の計 7 点の標本が収蔵されている [奄美大島: KAP99900956s (18 Sept. 1999, S. Ooya); 徳之島: KAP00800091s (18 Jan. 2008, S. Ooya), KAP20101063s (17 Dec. 2009, S. Ooya), KAP20160051s (25 Apr. 2016, J. Terada); 沖永良部島: KAG019133 (20 Feb. 2017, E. Suzuki), KAP20120197s & KAP20120198s (15 Mar. 2012, S. Ooya)]. 加えて、第四著者の鈴木は奄美大島にて、2016 年 2 月 22 日に大和村 (28°21.697'N, 129°23.549'E, 標高 196 m)、および 2019 年 3 月 20 日に名瀬市 (28°23.29'N, 129°29.61'E, 標高 10 m) にその生育を確認している。

また、標本は確認していないが、田畑 (2008) と木戸 (2015) は与論島で観察した植物としてタ

イワンハチジョウナを報告している。これらの記録、および鹿児島県が近年とりまとめた鹿児島県外来種リスト (鹿児島県外来種対策検討委員編, 2017) においても、台湾ハチジョウナの「県内の導入分布地」は「奄美大島・沖永良部島」と記されていることから、本種は奄美大島以南の島嶼部にのみ帰化が知られていた。加えて、1999 年より前の県内における分布記録は琉球植物誌 (初島, 1975) や鹿児島県植物目録 (初島, 1978) で確認できず、比較的近年になってから県内に帰化したものと推察される。

2020 年 4 月初旬、第一著者は県本土の鹿児島市田上～唐湊～郡元にかけて路傍や石垣の隙間に見慣れぬキク科の植物が点々と生育していることに気づいた。標本を採って同定したところ、これが台湾ハチジョウナであったため、県本土で確認された初の記録としてここに報告しておく。その後、鹿児島大学郡元キャンパス構内や荒田の路傍でもその生育を確認した。台湾ハチジョウナの種子はタンポポと同様に冠毛がついており、風散布によって今後市街地を中心に徐々に分布を拡大していくことが予想される。現時点での主な生育地は石垣や道路沿いなどの極めて人為的な環境下に限られることから、在来の野生種と強く競合する機会はそこまで多くないだろう。

証拠標本 JAPAN. Kagoshima Pref.: Kagoshima City, Tagamidai, 31°34'19.08"N, 130°31'32.79"E, 55 m elev., 8 Apr. 2020, *S. Tagane 1404* (KAG129923).

Tagane, S., K. Kubo, K. Yamazaki and E. Suzuki. 2020. Notes on naturalized plants in Kagoshima IV: *Sonchus wightianus* (Asteraceae), *Verbena incompta* (Verbenaceae), and *Nuttallanthus texanus* (Plantaginaceae). *Nature of Kagoshima* 47: 17–20.

☑ ST: The Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: stagane29@gmail.com).

Received: 26 May 2020; published online: 1 June 2020; http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_047/047-003.pdf



図1. タイワンハチジョウナ *Sonchus wightianus* DC. A, habit (juvenile); B, habit (flowering plant); C, flower; D, capitula covered with glandular hairs; E, flowers after anthesis. Photos A, B, D, E taken in Tagamidai, Kagoshima City on 8 Apr. 2020; C taken in Korimoto Campus of Kagoshima University, 2 May 2020.

ダキバアレチハナガサ *Verbena incompta* P.W. Michael, *Telopea* 6(2–3): 181 (1995). [クマツヅラ科] 図2.

ダキバアレチハナガサは南アメリカ原産の草丈約1mに達する多年生草本である。草姿は県内の都市部に広く帰化しているアレチハナガサ (*Verbena brasiliensis* Vell.) に似るが、葉や茎に剛毛が生えている点や、葉の基部が狭まらずに切型となって茎を抱く点で容易に区別可能である。

鹿児島県外来種リスト (鹿児島県外来種対策検討委員編, 2017) には本種は掲載されていないが、県内の分布記録としてはこれまでにトカラ列島悪石島 (志内・堀田, 2015) と奄美群島から標本が得られており、KAGには1993年に志内利明氏によって悪石島で採集された2点の標本 (KAG055376, KAG055377) と2018年に第四著者の鈴木によって採集された奄美群島請島 (KAG019325, KAG019974)、加計呂麻島 (KAG019348, KAG019716)、与論島 (KAG019605) の標本が収蔵されている。また、標本は作成していないが、鈴木は奄美大島の竜郷町、奄美市 (名瀬)、大和村、瀬戸内町にてその生育を確認し、写真を撮影して記録している。

今回は、大隅半島の肝属郡南大隅町の間泊港の開けた路傍草地に30個体程度がまとまって生

育しているのを確認したため、県内における九州本土側の初の記録として、証拠標本と共に報告をする。間泊港の生育地では周辺の集落や道路沿いには見られなかったことから、ごく最近になって港湾整備の際などに種子が持ち込まれ、定着している状況にあると推察された。

証拠標本 JAPAN. Kagoshima Pref.: Minami-osumicho, Madomari, 31°02'15.04"N, 130°42'50.33"E, 2 m elev., 8 May 2020, Tagane S. & Yamazaki K. K112 (KAG157972).

オオマツバウンラン *Nuttallanthus texanus* (Scheele) D.A. Sutton, *Rev. Tribe Antirrhineae*: 460 (1988). [オオバコ科] 図3.

オオマツバウンランは北アメリカ原産のオオバコ科の多年草 (または一年草) である。県内に広く帰化しているマツバウンラン *Nuttallanthus canadensis* (L.) D.A. Sutton に類似するが、花や葉が全体的に大きいこと (花冠 10–13 mm long, 距 6–11 mm long in *N. texanus* vs. 花冠 7–10 mm long, 距 2–6 mm long in *N. canadensis*) (Wagner et al., 1999), 花色がほぼ薄紫色一色であることなどから区別される。Science Museum Net (ANONYMOUS, 2019; <http://science-net.kahaku.go.jp/>) に提供されている標本情報によると、国内では1992年



図2. ダキバアレチハナガサ *Verbena incompta* P.W. Michael. A, habitat; B, leaves; C, portion of inflorescence; D, flowers. All photos taken in Minami-Osumi-cho on 8 May 2020.

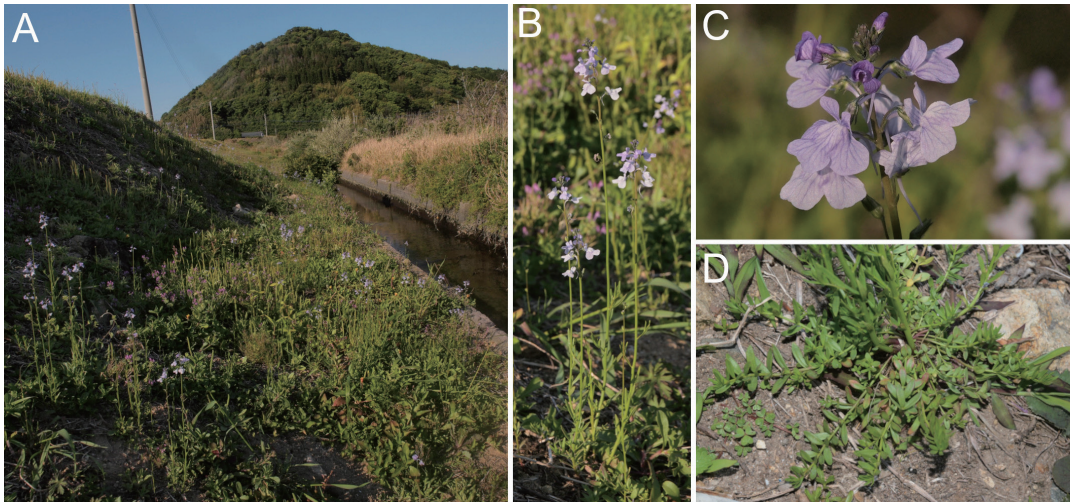


図3. オオマツバウンラン *Nuttallanthus texanus* (Scheele) D.A. Sutton. A, habitat; B, habit; C, flowers; D, base of stem. All photos taken in Minami-Satsuma City on 29 Apr. 2020.

5月7日の神奈川県で採集された標本が最も古く (KPM-NA1104632), 以後点々と東北 (秋田) 関東 (群馬・神奈川), 東海 (静岡), 近畿 (奈良, 三重), 中国地方 (岡山, 兵庫) でオオマツバウンランと同定されている標本が得られている。九州では長崎市にて定着が確認されている (長崎市自然環境調査委員, 2015)。鹿児島県内でのオオマツバウンランの記録はこれまでに知られていなかったが, 著者らは南さつま市の大浦川河口近くの明るい土手に, ツボミオオバコ, ヤブチョロギ, ホトケノザ, ハマエンドウなどと共に生育してい

る小集団を確認した。本種も人為的な環境下を主な生育地とする帰化種でこれから県内でも分布を拡大していくことが想定されるが, 土手など, より在来野生種が生育しているニッチにも侵入可能なため, タイワンハチジョウナに比べると在来野生種と競合する機会が多少あるかもしれない。

証拠標本 JAPAN. Kagoshima Pref.: Minami-Satsuma City, Oura-cho, 31°23'53.62"N, 130°13'35.76"E, 12 m elev., 29 Apr. 2020, Tagane S. & Yamazaki K. K102 (KAG157957).

引用文献

- 天野正晴, 高田 圭, 中村元紀, 佐藤寛之, 宮城直樹, 立石庸一. 2012. 琉球大学千原構内に生育する野生維管束植物. 琉球大学教育学部紀要 81: 333-354.
- ANONYMOUS. 2019. Science Museum Net (S-Net). <http://science-net.kahaku.go.jp/> [accessed 30 Apr. 2020].
- 初島住彦. 1975. 琉球植物誌 (追加・訂正). 沖縄生物教育研究会, 1002 pp.
- 初島住彦. 1978. 鹿児島県植物目録. 鹿児島植物同好会, 234 pp.
- 鹿児島県外来種対策検討委員 (編). 2017. 鹿児島県外来種リスト. 鹿児島県, 59 pp. [available from <http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/alienspecies-list.html>]
- 木戸伸栄. 2015. 与論島の植物. 鹿児島国際大学福祉社会学部論集第 33(4): 66-75.
- 長崎市自然環境調査委員(編). 2015. 長崎市の外来種リスト. 長崎市, 39 pp. [available from <https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/170000/175000/p026473.html>]
- 志内利明・堀田 満. 2015. トカラ地域植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 No. 7, 368 pp.
- 田畑満大. 2008. 与論島植物目録. きよらじま 18: 35-68.
- Wagner, W. L., Herbst, D. R. and Sohmer, S. H. 1999. Manual of the Flowering Plants of Hawai'i, Revised edition, volume 2. University of Hawai'i Press & Bishop Museum Press, 1919 pp.